

日本脳炎 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

日本脳炎ウイルスの感染でおこります。人から人に直接感染するのではなく、ブタ等の体内でウイルスが増えた後、そのブタを刺した蚊が人を刺すことによって感染します。蚊の活動が活発になる夏には特に注意が必要です。

6～16日の潜伏期間後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障がい、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。日本脳炎の発生は西日本地域が中心ですが、ウイルスは日本全体に分布しています。ブタにおける流行は毎年6月～10月頃まで続き、この間に地域によっては80%以上のブタが感染します。以前は小児、学童を中心に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では、予防接種を受けていない人や高齢者にも患者が発生しています。感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか、無菌性髄膜炎や夏力ゼ様の症状で終わる人もあります。脳炎の致死率は約20～40%といわれており、また、いったん脳症を発症すると、神経の後遺症を残す例が多くみられます。

【どんなワクチン？】

平成21年6月から使用されている乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは日本脳炎ウイルスを精製し、不活化したワクチン(病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせたものを原材料として作られたワクチン)です。予防効果は抗体反応から約80%と推定されており、接種回数が多くなるほど抗体保有率は高く、高い抗体価をもつ人の割合が増えることから、1～2回の接種では不十分で、3回以上の基礎免疫を終了しておくことが重要です。子どもの定期接種は、1期初回接種として6日以上(標準的には28日まで)の間隔をあけて2回、その後6か月以上(標準的にはおおむね1年)の間隔をあけて追加接種を1回行います。対象年齢を超えた場合(成人含む)は、医師と回数等を相談のうえで行っています。

【副反応は？】

副反応の主なものは発熱、咳、鼻水、注射部位の発赤・腫れ、発しんで、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられます。

その他に、ショック、アナフィラキシー様症状(接種後30分以内に出現する呼吸困難等の重いアレルギー反応)、急性散在性脳脊髄炎(免疫力の異常で自分自身の体を攻撃して起こる脳や脊髄の病気)、脳炎、けいれん、血小板減少性紫斑病などの重大な副反応の発生がみられることがあります。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

① 定期接種(大阪市の場合)

予防接種名	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	接種間隔	
日本脳炎 ※	1期初回	生後6から90か月に至るまで及び特例対象者	3歳	2回	6日以上の間隔をあけて2回
	1期追加	生後6から90か月に至るまで及び特例対象者	4歳	1回	初回2回終了後6か月以上の間隔をあけて1回
	2期	9から13歳未満及び特例対象者	小学校4年生	1回	

※ 平成17年度から平成21年度にかけて、日本脳炎ワクチンの積極的な接種勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方(特例対象者)に対する接種機会の確保が図られることとなりました。また、平成26年4月から日本脳炎の接種間隔の上限の撤廃及び追加接種の接種間隔の下限が明確化されました。

② 任意接種

任意接種の場合は、定期接種の回数・間隔に準じて接種します。成人の場合は、子どもの頃の接種歴などにより、必要となる接種回数異なります。

予防接種名	当センター接種料金
日本脳炎	¥8,000

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
 - (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。(成人で母子健康手帳のない場合は結構です。)
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
- (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
 - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
 - (3) 予約票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹 (治ってから 4 週間程度)	風しん、水痘、おたふくかぜ (治ってから 2~4 週間程度)
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑 (治ってから 1~2 週間程度)	普通感冒や上気道炎 (治ってから 1 週間程度)

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人(明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が 37.5℃以上を指します。)
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー(接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと)を起こしたことがある人。
- (4) BCG 接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもらってからご来院ください。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後 2 日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間(症状が出ない期間)中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG 接種については、過去に結核患者と長年に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと 30 分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種後は、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意してください。
- (3) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (4) 高熱、おう吐、けいれん(ひきつけ)など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、生ワクチン接種の場合は、ウイルスの干渉を防止するため 27 日以上間隔をあけてください。不活化ワクチン接種の場合は、約 1 週間経てばワクチンによる反応がなくなるため 6 日以上間隔をあけてください。

予防接種の種類	間隔
【生ワクチン】 結核(BCG) 麻疹風しん混合(MR) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 水痘(みずぼうそう) ロタウイルス(1 価・5 価) 黄熱	27 日以上の間隔をあける
【不活化ワクチン】 4 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3 種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2 種混合(ジフテリア・破傷風) 破傷風 ポリオ 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌 b 型) 肺炎球菌(13 価・23 価) HPV(ヒトパピローマウイルス) インフルエンザ A 型肝炎 B 型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌	6 日以上の間隔をあける

同時に複数の種類のワクチンを接種後に他の種類のワクチンを接種する場合も上記表のとおりです。なお、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。